東成の歴史

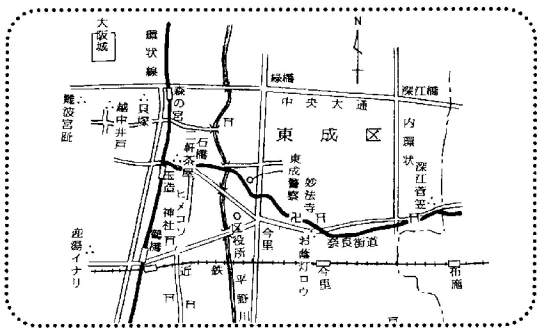
シリーズ No.3

“奈良街道あちこち”(上)

大阪府文化財愛護推進委員
東成区コミュニティスクール“歴史シリーズ”講師　友田　譲

区内をほぼ東西に走る旧街道として有名な奈良街道は、別名暗越(くらがりごえ)奈良街道ともいわれています。いつ頃から開けた道か詳しくはわかりませんが、およそ500年～600年前から、攝津・河内と大和の村落を結ぶ重要な道として既に開発されていたことが推察され、大阪冬の陣の各大名軍団配置図によってもそれを知ることができます。

この奈良街道がひらけないその昔、難波(大阪)から大和(奈良)へは、日本最古の国道といわれる“竹内街道”が多く利用され、日下の直越(くさかのただごえ)が萬葉集などに見られます。この奈良街道は生駒山系の暗峠を越えて奈良に至る最短コースであったところから、暗越奈良街道の名が起こりました。大阪高麗橋を起点に旧市内から玉造へ、更に玉津橋を右手にくねくねと曲がりながら、東成警察署前－大今里－深江－河内を経て奈良に入ったのです。



江戸中期からお伊勢参りが全国的に盛んになり、この道はそれら旅人で溢れんばかりに賑わったことが想像できます。

では、街道沿いの名所旧跡にスポットをあててみましょう。

まず「二軒茶屋」「石橋」があります。春の訪れとともに、他国からの伊勢参りの旅人は旧淀川八軒家(現在の松坂屋南側)で舟から上り、内安堂橋通りから上二を通って玉造に着きます。当時、玉造は旧市街のはずれで、旅人はここで旅装を整え、ヤットコセー、ヨーイヤナーと伊勢音頭を賑やかに唄いながら東へと向かったものです。この旅人たちの休息所として、現在のＪＲ玉造駅東側の路上に「玉造名所・二軒茶屋石橋旧跡」の石碑が立っており、往時ははここに“鶴屋(つるや)”“桝屋(ますや)”という茶屋があったところから、二軒茶屋の名がおこりました。またこの茶屋の傍を流れる猫間川に、慶安３年(1650年)幕命により架けられた市中最初の石造橋で、正式には黒門橋でありますが、俗に石橋として知られ、上方古典落語にも登場します。この近くに豊臣時代の大阪城の玉造門があり、それが黒かったところから、黒門の名がつけられたといわれています。現在は大阪市の史跡に指定されています。

ご意見、ご希望は・・・・・　市立東成会館 (財)東成区コミュニティ協会 TEL6972-0717 FAX6972-0838
Ｅメールアドレス：enarik@mbox.inet-osaka.or.jp